

## 看護部オリジナルマスキングテープの作成

### 事業概要

岡山大学、岡山大学病院では大学のロゴや表現したいイメージをモチーフにしたオリジナルグッズを作成し、用途に応じて活用しています。中でも岡山大学病院のグッズは非売品で、特定の条件を満たす場合(例:職員やイベント参加等)にのみ取得できる「プレミア感」が特徴です。

看護部では、看護職の採用活動として行う病院見学会や次世代の医療職育成を目的とした高校生対象のふれあい看護体験を実施しています。このような機会に、看護部パンフレットとともに、大学オリジナルのボールペンや、病院オリジナルのマスキングテープ等をお渡ししてきました。今回、岡山大学病院看護部のロゴのPRとさまざまな場面で活用可能な看護部オリジナルのマスキングテープを作成し、使用しました。



マスキングテープでデコレーション

### Message

岡山大学病院の想い虹基金にご寄付をいただき誠にありがとうございます。このたび、看護部のロゴをモチーフとしたマスキングテープを作成させていただきました。マスキングテープは、デザインの豊富さ、選ぶ楽しさ、日常に彩りを添えるグッズとして、さまざまな年代層に支持されています。ロゴに込めた私たちが叶えたい看護をPRしつつ、参加者にオリジナルマスキングテープをお渡ししました。岡山大学病院のチームの一員として働きたい! ナースになりたい! …そんな夢と誇りが伝えられる看護部であるよう一層努力する所存です。



岩谷 美貴子  
看護部長

## 「想い虹」寄付のお申し込み方法については ホームページをご覧ください

### 岡山大学病院ホームページ

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index17.html>



ウェブサイトからの申し込みについては、  
下記の支払方法によりご寄付いただけます。

- クレジット決済
- コンビニ決済
- ペイジー決済  
(インターネットバンキング決済)

スマートフォンからの申し込みについては、  
下記の支払方法によりご寄付いただけます。



J-Coin Payについて

ぼちっと募金について

ご寄付いただいた皆さまのご芳名を、  
院内で公表させていただいております。  
(公表を希望される方のみ)



### 寄付に関する問い合わせ

研究推進課 研究支援・推進グループ総務担当 TEL:086-235-7982  
〒700-8558 岡山市北区鹿田町2-5-1 Mail:shikata-kihukin@adm.okayama-u.ac.jp



# 想い虹 News Letter



岡山大学病院  
OKAYAMA UNIVERSITY HOSPITAL  
1870

令和6年度報告

## 病院長からのメッセージ



岡山大学病院は、患者の皆さまに「高度な医療を優しく提供する」という理念を  
かかげております。そのために安全で公正な医療を実践し、温かく優しい心を育む  
病院環境づくりに努めております。

皆さま方の温かいご寄付、「想い虹」は、岡山大学病院の移植医療をはじめとする  
先進的な医療の推進、すべての患者さんが安心して安全な治療を受けることのできる  
療養環境の実現、ならびに医療従事環境の整備に役立たせていただきます。

皆さま方からの温かい“想い”に心から感謝を申し上げます。

岡山大学病院長 前田 嘉信

## 想い虹 とは

皆さま方の“想い”の一つ一つが紡がれて“虹の架け橋”となり、これからの治療を受けられる  
患者の皆さまへの“助け”となりますように…、という願いが込められています。

岡山大学病院における先進医療推進事業、患者療養環境整備事業、医療従事環境整備事業、革  
新的研究等推進事業、医療人材育成事業等のために大切に活用させていただいております。次ペー  
ジからは、令和6年度の事業をご紹介します。



先進医療推進事業  
革新的研究等推進事業



患者療養環境整備事業



医療従事環境整備事業  
医療人材育成事業

## 寄付活用事業①

革新的研究等推進事業

# 大規模データベースを活用して遺伝子の違いによる病気のリスクを解析

## 事業概要

J-MICC Study<sup>(※)</sup>と呼ばれる大規模調査のデータを活用し、生活習慣や遺伝子の違いによってがんや心臓病、腎臓病などの病気にかかるリスクや予後に及ぼす影響について解析しました。私たちの研究では脂肪細胞から分泌される「アディポカイン」という物質に注目し、その一つとして「バスピン」を発見しました。バスピンを作る遺伝子(SERPINA12遺伝子)には個人差があり、T型と呼ばれるタイプを持つ人では、血液中のバスピンの量が異なることが分かっています。J-MICCに登録されている人の遺伝子のわずかな違いと臨床データを照らし合わせ、バスピンががんや心臓病などの心疾患、腎臓病にかかるリスクなど、病気の発症や進行へ及ぼす影響を解析します。この研究により、誰がどの病気にかかりやすいか予測できるようになり、将来の病気の予防や個別化医療につながることを期待されます。



### ※J-MICC Studyとは？

2005年に始まり、国内で10万人が参加する日本最大級の健康調査。参加者の生活習慣や健康診断の結果、さらに遺伝子の情報を集めて、病気のなりやすさを調べている。すでに約1万5千人分の詳細な遺伝子情報(ゲノム解析データ)が整備されている。



神野 文香  
ダイバーシティ推進センター  
(腎臓・糖尿病・内分泌内科)医師

岡山大学病院の想い虹基金にご寄付をいただき、誠にありがとうございます。今回、私たちの研究でアディポカインであるバスピンの濃度を測定するためのキットの購入および関連する学会への参加やデータ解析にかかる諸経費として活用させていただきました。バスピンは抗炎症、抗酸化作用があり動脈硬化を抑制する作用があります。しかし、まだまだ解明されていない部分も多いので、今後実験や解析を続け、今後の医療につながる新たな発見を期待していきます。あらためまして、皆さまからのご支援に感謝いたします。

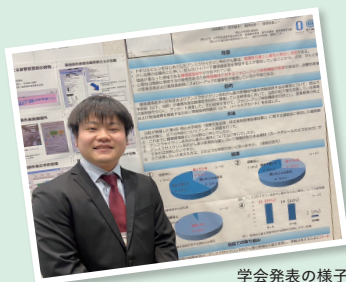
## 寄付活用事業②

革新的研究等推進事業

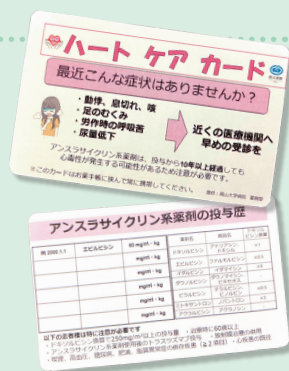
# 抗がん剤治療後の健康を支える「ハートケアカード」を作成

## 事業概要

アンスラサイクリン系抗がん薬を投与した患者さんは、治療中だけでなく治療後も心毒性を発症するリスクが知られています。薬剤部では、患者さんの長期的な健康管理を支援するため、心毒性フォローアップを目的として「ハートケアカード」を作成しました。カードの表面には心毒性の主な症状を記載しており、このような症状があれば早めに医療機関を受診するように促しています。裏面にはアンスラサイクリン系抗がん薬の投与履歴を記載できるスペースも設けています。これにより患者さんと当院職員間だけでなく、かかりつけの病院や薬局など地域の医療者にも情報を共有できるので、治療終了後も安心して生活を送るための一助となることを期待しています。2025年2月から患者さんへ交付しています。この取り組みは、2025年3月に開催された「第14回 日本臨床腫瘍薬学会学術大会2025」で発表しました。今後も継続的に活動を進めていく予定です。



学会発表の様子



坂居 知憲  
薬剤部 薬剤師

想い虹基金のご寄付をいただき深く感謝申し上げます。皆さまのご支援により、「ハートケアカード」の運用を開始することができ、当院オリジナルのフォローアップ体制を構築することができました。カード作成にあたっては、患者さんが使いやすく、医療者にとっても実用的になるよう工夫しました。学術大会では、他施設の先生方から「いい取り組みですね」とコメントをいただくこともできました。今後も患者さんの健康を願いながら、さらに充実したフォローアップ体制を構築してまいります。

## 寄付活用事業③

患者療養環境整備事業

# ロービジョン患者さんに配慮した誘導・案内サイン整備

## 事業概要

眼科外来が歯学部棟3階へ移転して以来、見えにくい(ロービジョン)患者さんたちが眼科まで辿り着けない、診察が終わっても総合窓口まで戻れない、という問題が生じていました。そこで、外来棟の入口(病院玄関)から最も近いエレベーターで3階まで上り、そこで降りてからの「みちしるべ」となる茶色の誘導線を眼科入口までの床に整備し、案内サインも目立つように設置しました。眼科内では、検査室や診察室を番号で案内するため、番号を示す案内サインに使われている紫色の誘導線を設置しました。これらにより、今まで迷っていた患者さんがスムーズに移動できるようになり、職員が案内する手間も省けて助かっています。

## Message

想い虹基金にご寄付をいただき、誠にありがとうございました。おかげさまで、懸案だった「迷子」の問題を解決することができました。「病院までは行けるけど、眼科までが行けないから息子に仕事を休んでもらった」「違う方へ進んでいて、だいぶ遠回りをした」「迷ってしまい、人に連れて来てもらった」「いつも辿り着けるか心配」などの声が、「誘導線を伝うとすぐに着きました」「歩くのがとても楽です」という笑顔に変わりました。職員も誘導することなく患者さんを見送れるのでニコニコです。



守本 典子  
眼科 医師



エレベーターを降りたらUターン



最後のT字路



眼科へようこそ



〇番へどうぞ

## 寄付活用事業④

患者療養環境整備事業／医療従事環境整備事業

# “ハッピーアートプロジェクト”で患者さんも職員も笑顔に

## 事業概要

ハッピーアートプロジェクトは、令和5年度に初めて実施し、好評いただいた院内装飾品を職員が手づくりする活動をさらに発展させて、令和6年度も実施しました。前年の活動に興味をもってくださった職員の多くが参加し、延べ55人が60点以上の作品を手作りしました。クリスマスに向けて色とりどりの装飾品を作り、今回は患者さんにより身近に楽しんでいただけるよう、外来だけでなく病棟の受付カウンターや廊下の壁面を中心に飾り付けを行いました。患者さんからは「今年も楽しみにしていました」と喜びの声をいただき、職員同士の交流や笑顔あふれる雰囲気づくりにもつながりました。今後も、患者さんに楽しんでいただける院内の環境づくりを大切にしていきます。



各病棟のカウンターに展示



作品作りに挑む職員

## Message

このたびは想い虹基金に貴重なご寄付を賜り、心より御礼申し上げます。いただいたご支援により、昨年に引き続き職員手作りのアート作品で院内を彩ることができ、クリスマスの装飾品が病棟の受付や廊下を明るく華やかにしました。患者さんからも喜びの声が寄せられ、職員も小さなプレゼントを届けられたことを嬉しく感じております。今後も、このご厚意を活かし、院内環境の一層の充実に努めてまいります。



櫻田 泰江  
総合内科・総合診療科 医師